

読書による知識の差

21711380 山口 裕也

21711185 品川 勇樹

21711175 佐藤 奈々

・目的は読書をする人としらない人で、成績や知識に差が出るのかを調べた。

・実験方法は、大学生 50 人にアンケート方式で、本を読んでいる人、読んでいない人に同じ問題を答えてもらい、正答率の平均をグラフにだし比較した。問題内容は、漢字問題 5 問、IQ テスト 3 問、最後 GPA を答えてもらった。

・本を読む人が 52%、読まない人が 48%だった。

読むと答えた人は、68%が漫画、15%が雑誌、12%が参考書、15%が小説を読んでいると答えた。

・漢字テスト、1 海星、2 所謂、3 徐に、4 禪、5 賽子

正答率は、本を読む人が 2.4%、読まない人が 2%であった。

これは、読んでいる人、読んでいない人で分けて正答率を出し、それを比較した。

・IQ テスト

正答率は、本を読む人が 2.4%、読まない人が 2%だった。

これも、漢字テストと同じく読んでいる人、読んでいない人で分けて正答率を出し、それを比較した。

・結果から、本を読んでいる人のほうが正答率が高く、GPA のグラフでは大きな差は見えないが、実際は約 0.5 も違うので知識の差は大きいと分かった。

考察

はじめの私たちの考えは、本を読んでも、読んでいなくても、あまり変わらないのではないかと思っていましたが、やはり読書をしている人は漢字の読み書きが読んでいない人に比べてできて、読んでない人は読める人は読めるが全体的には読んでいる人に劣っている。IQ テストも柔軟な思考を持っている読書をしている人が正解していた。結果的に、読書をしていると、集中力、思考力などが自然と身に付き成績アップにもつながる。